



第24号

17/11/29

発行

ことぶき大学
事務局

TEL39-2318

三校実践交流会

小雪の候、ことぶき大学の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

本当に月日の経つのは早いものです。11月も終わり、いよいよ師走を迎えます。 私ごと…

最近、週末天気が悪いので、先週やっと庭の冬の手入れが終わったところですよ。

バラの棘で、手の甲はブツブツ、でも降り積もった白い雪が冬の寒さから守ってくれるのでしょう。

まだ根雪ではないだろうと思っております。あと数日でもいい、小春日和の日が欲しいですね。

さて、今回は、「主張・実践発表交流会」でした。まずは、皆さん

お疲れさまでした。皆さん方の素晴らしい発表に感動しました。

午前の一番目の研究発表は、富良野校本科2年生です。

今年の上川管内高

齢者学びの集いに参加したこと、来年度の発表学年ということもあり、平澤さんを中心いろいろな試行錯誤したテーマだったと思います。



「ふれあいサロンとミニサロン」の活動について、高齢者にとって意外に知られていない人と人が触れ合い、コミュニケーションの場の紹介でした。時間制限もあり、平澤さんのプレッシャーはきつと大きかったのと思います。お疲れさまでした。



「風に立つライオン」、富良野校研究科の藤井さんの詩の朗読は、とても力強く素晴らしかった。

朗読に合わせてピアノのBGMがつくられたということです。

1週間前の練習も良かったですね。

自信に満ちていて

ピアノのBGMとの

息がぴったり合い、しかも共鳴して高め合っていたという印象を受けました。藤井さんお疲れさまでした。



研究発表「郷土の生い立ちについて」は、富良野校本科1年生の発表でした。

地球の成り立ちからこの富良野の街の安全を考えるとという発想が実に興味深いです。疑問を一つずつ素朴に、自分に納得したいという学びの姿勢がとても純粋でよかったです。感動しました。



一年生の皆さんお疲れさまでした。



続いて、富良野校本科3年生の発表は、移住者紹介2年間の研究成果と繋がっています。

「森づくりの集いに参加して」をテーマに、ボランティアの精神を大切にし、積極的に行動している本科3年生。大人の使命は、いかに社会に貢献することにあるかということをお話してくれています。とても素晴らしい発表でした。お疲れさまでした。



山部校の研究発表は、「ふるの沿線温泉取材」でした。30ページにも及び丁寧な資料は、きつと生活をより豊かにするための必携となること間違いなしです。

楽しみながら学ぶこと、行動的な山部校の皆さんらしい発表でした。お疲れさまでした。



東山校の研究発表は、「東山地域農産物直売場のお話し」でした。

東山校の柿原校長先生制作のパワーポイントでの資料、発表する人、

内容と時間、間合いを
考えながら、発表当日
まで試行錯誤した苦労
の跡が感じられました。

この直売所ができる
までもいろいろな課題
が山積されていたこと
でしょう。「ローマは一日にしてなら
ず」東山地域の方々の熱意が感じら
れた発表でした。お疲れさまでした。



午前の最後の発表は、富良野校研
究科「滅びゆくホロー看板」の発
表でした。

今や、ホロー製品は
アンティークで貴重なも
のというイメージもあり
ます。



この題材に目を付けた
ということがとても興味
があります。中でも「男山」の看板
の下から船曳さんの腕が伸びている
一枚は驚きです。古いものにこだわ
るといことは、古いものを大切に
するということです。個性的なメン
バーで構成されている研究科生にふ

さわしいこだわりの発表でした。
大変お疲れさまでした。

近内学長による講評でも、各学校
、各学年への頑張りへの激励と慰労
とともに、次の実践に繋がる助言を
をいただきました。

ありがとうございました。



午後は、東山校の発表から始まり
ました。

今年は、民謡舞踊「よさこい節」
でした。東山地域を盛り上げ、引ッ
張っていく坂本さん
を中心とした東山校
の皆さんの気概を実
感しました。

お疲れさまでした。



午後の2番目は、富良野校大学院
1年生の研究発表でした。

大学院へ進んだら名
の皆さんがテーマにし
たのは、「それぞれの
名号・と同じ地名探し」
でした。



まず驚いたのは、パワーポイント
での資料です。とても工夫され、吟
味されており大変素晴らしいかっただ
す。

昨年発表の「農家さん訪問レポー
ト」を思い出し、藤野さんを中心と
した大学院1年生らしい完成度の高
い発表となりました。

お疲れさまでした。



続いての発表は、富良野校大学院
2年生の演劇「還付金詐欺と認知症
の老人」でした。二年前の感動が蘇
りました。

実に、演技が自然で
演劇らしくないところ
がまた素晴らしい。

台本にない台詞が自
然に出て来るところもさすが演劇祭
出場の実験がなせる技と言えるでし
ょうか。

出演者の個性が溢れた作品だった
と思います。最高でした。
皆さんお疲れさまでした。これか
らもよろしく願います。



続いて、スコップ三味線同好会に
よる演奏でした。富良野校研究科の
船曳さんのスコップ三味線楽譜と
DVDなくしてこの同好会の結成は
はありません。

積極的に練習に参加
する山部校3名、荒田
さん、久保さん、氣田
さんの力はとても大き
いですし、全体の迫力に繋がって
いると思います。

進化し続けるスコップ三味線にこ
れからも期待してください。

「待ってました！」
と声もかかりました。
カラオケクラブによ
る発表です。

黒須さんの熱唱した「お岩木山」
ですが、この曲は、三市町交流会の
時に歌う予定でした。でも、他の町
との重複で急きよ変更した曲でもあ
りました。黒須さんを囲んでの全員
による「ふらの哀愁」と「ハッピー
音頭」も大変盛り上がりました。
お疲れさまでした。



さて、残りは一つとなりました。今年も山部校全員による歌と踊り「祭りだワッショイ」から変わって「お祭りのマンボ」の登場です！



多少の歌と、踊りと、手拍子とが合わなかつたって元気で勇気があればそれでいい！今年も、会場を盛り上げていただきました。

山部校の皆さんお疲れさまでした。最後に、ことぶき大学校歌を声たからかに斉唱し、幕を閉じました。平成29年度ことぶき大学主張・実践発表交流会が皆さんとともに無事終了することができました。ありがとうございました。

本日の日程

11月29日(水曜日)

当番 大院一年(午後の会場)

つくりをお願ひします。椅子のみ)

★12月13日(水) お楽しみ会の

お弁当・余興の締め切り日(富良野校自治会)

8時45分◆集合(大ホール)

9時00分◆三校合同教科学習

★第11回 子ども未来つくり

フォーラム(11時30分終了)

11時40分◆風食・休憩

山部校(大会議室)

東山校(応接室)

12時40分◆映画鑑賞会

◆めづり逢えたら 1933制作

メグ・ライアン

トム・ハンクス

◆ローマの休日 1953制作

グレゴリー・ペック

オードリー・ヘップバーン

◆我が道を往く 1944制作

ビング・クロスビー

バリー・フィッツジェラルド

この3本の中から一本選びます。

★お楽しみに！

15時00分

自治会役員会 事務局から



子ども未来フォーラム

昨年度から小学生のみによる発表会が行われました。

今回は、どんなテーマとパフォーマンスが観られるのでしょうか。

高齢化が一層進むこれからの社会

、環境・食料・国際問題等々の課題が山積されたこの現実に、大人がどれだけ責任と使命感を持って対処しているのか、その後姿が未来を創造する子どもたちへの希望へと繋がっていくべきなのではないでしょうか。全身を傾けて聴きましょう。



映画鑑賞会

恒例になりました映画鑑賞会ですが、今回は、「ローマの休日」です。勿論、ご覧になった方も多数いらっしゃると思いますが、1953年制作のウィリアム・ワイラー監督アカデミー賞主演女優賞のオードリー・ヘップバーンと大いなる西部でのグレゴリー・ペックです。

先日、オードリー・ヘップバーンの息子さんが「番組の中で「真実の口」について話をしていました。スペイン階段での時刻の流れなど初めて知ったこともあり、私としても新鮮な気持ちで今回鑑賞できたいです。

また、今回は、上記の3作を用意

しましたが、「ご覧になりたい方がいらついたら声をかけてください。

次回の日程

12月6日(水曜日)

当番 大院二年

自治会から「新年度の集いの

お弁当の数の締め切り

8時45分◆会場へVS

9時15分◆朝の集い

10時00分◆クラブ学習⑩

卒業作品展も視野に入れて

ください。

12時00分◆風食・休憩

13時00分◆学年別研究⑨

(お楽しみ会に向けて)

15時00分◆自治会役員会

今回は、師走の12月6日です。

忘年会や新年会の準備の時でもありますね。

午前は、クラブの時間です。クラブの時間は今回を含めて、3回となります。限られた時間ですが、卒業記念作品展もありますので、準備も進めてほしいと思います。

なお、今回の主張・実践発表交流会での作品展での「書道クラブ」と「絵手紙クラブ」の作品については、ポッポブリッジに展示しましたので、時間を見つけて足を運んでください。(防寒装備で……)

また、午後は、富良野校のお楽しみ忘年会に向けての練習となります。内容については、すでに決まっています。学年もあるかと思えます。

何かございましたら事務局に相談ください。



昨年は、「塩狩峠」発行五十周年記念の年。「氷点」や「泥流地帯」など身近な作家、旭川市出身の三浦綾子の作品をテーマに、文学館や記念館も見学しました。

また、今年も、生誕百五十周年を迎え、今も若者から高齢者まで幅広い人気がある夏目漱石の作品をテーマに、「吾輩は猫である」の映画視聴から漱石に触れることになりました。

夏目漱石の魅力とは、「人間は苦悩する」ということかもしれない。時代は、幕末から明治、混沌とした社会の中でいかに自分らしく生きようと葛藤したのか、漱石の生き様が、いろいろな社会的問題が山積した混沌とした今の時代と似ているとも言えるでしょう。この漱石との出会いから、漱石の魅力の一部に触れることができたいと思っています。

さて、来年度のことですが……太宰治も考えているのですが、本命は、宮沢賢治を取り上げたいと思っています。詩人であり童話作家でもある宮沢賢治。宮沢賢治の作品というより、「宮沢賢治の宇宙に触れる」という言い方がピッタリするようにも感じています。

今のところですが……
「詩」「童話」の世界へ一歩踏み出すことなど、いろいろと検討しています。



「夏目漱石没100年の読み直し」

「兄さんは書物を読んでも、理屈を考へても、飯を食っても、散歩をしても、二六時中何をしても、そこに安

住する事ができないのだそうです。何をしても、こんな事をしては行かないという気分には追いかけられないのだそうです。」



《行人》

詩人のように純粋な気質の学者・一郎は、妻のお直の気持ちに弟の二郎にあってはならないかと疑い、一夜をともに過ごして、お直の心を確かめてくれと二郎に頼む。二郎はとんでもないと断るが、日中だけならとお直とふたりで出かけ、嵐の襲来によってしかたなく旅館に泊まることになった。

深刻な人間不信に陥り、妻はもちろん、父母や弟妹の誰ともオープンに向き合えない一郎。
一郎には執筆当時の漱石が反映されているという。文名が上がるにつれ、漱石を離れた古い弟子たちが、おごり高くなって師の作品を批判したり、自然主義全盛の文壇に軽視されがちだった。体調が悪いのに、育ち盛りの子供たちが、家の中にはいつもいるささい。漱石の孤独感が増すばかり。「死ぬか、気が違つか、宗教に入るか……」と悩む一郎の言葉は、漱石自身の悲痛な叫びだったのだろう。

卒業式の日程変更

当初予定していた三月十四日の卒業式ですが、市議会の開催と重なり変更されます。

今のところ、一週間前倒しして三月の第二週目頃を予定しておりますが、正式には、年明けに決定されますのでご理解ください。

「吾が想い出の記」の準備と「新年度に向けて」

新年度に向けては、今後、アンケート調査も実施していきますが、新しい年に向けて、今年度中に取り組めることもあるかと思っています。

事務局からの提案とともに、新年度に向けてできることから積極的に推進していきたいと思っております。

また、卒業・修了文集としての「吾が想い出の記」ですが、これは全員の文集です。思い出の一言を作文・詩・俳句や川柳・クマツブシでの作品を写真で掲載することも可能です。事務局に相談ください。

全面的に協力します……